

2022 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [宮城県宮城野高等学校] 担当教諭名 [鈴木 幸恵] (2年 14名)

相手国・地域 [パキスタン]

海外学校名 [Modernage Public School & Girls College, Abbottabad] 担当教諭名 [Mehreen Ansar / Ammara Ahmed]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単 元 名	時間数
	探究活動(国際ゼミ)	アートマイル活動	28

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Friendship (友情)
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	To make the world better for our future (私たちの未来をより良いものに)
	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
SDGsについて考え、英語でプレゼンテーションをするというタスクは生徒には難易度の高いものだったが、伝える相手がいることで熱心に取り組むことが出来た。プレゼンテーションに関しては、徐々に質が上がり、交流に適したものになっていった。1, 2年合同の授業になるが、壁画制作のために互いに意見を出し合い、協力して完成することが出来た。	相手校の担当者が急遽変わる等の問題で計画が一ヶ月近く遅れ、生徒達に落ち着いて取り組ませることが出来なかった。オンラインでの交流がネット環境、言語面で難しく、Forumでの筆記の投稿で交流という手段も考えたが、相手校とテーマを深掘りするような投稿のやり取りまではいかなかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
生徒にとって外国の学生同士交流するのは初めての経験で、特にパキスタンには馴染みが無く、先方の学生と英語でやり取りすることは全て非常に新鮮な経験であった。英語の差にショックを受けながらも、同世代だからこそ伝わる感覚を味わい、喜び、世界のニュースに目が向くようになるなど、自らの視野を広げようとする変化が見られている。	あまり馴染みのないパキスタンという国の先生方と協力して、馴染みのない英語でやり取りをするのは大きなチャレンジであった。生徒のプレゼンテーションが徐々に良くなる様子、メッセージ等で合意を得た達成感、双方の学生の学び、気持ちを考えながら段階を踏む大変さと喜びを感じた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	5月 ～ 9月	自己紹介動画作成 SDGsについて考えを深めテーマを絞る テーマの合意を得、KJ法で考えを深める	グループ毎にKJ法で考えを深める時間は積極的に取り組み、自分たちなりの①日本で達成していること②まだ取り組めていないこと③今後の課題を出すことが出来た。	探究活動
共有 相手と意見交換	10月 11月	Forumとオンラインミーティングで互いが調べた内容、考えを発表する	英語での投稿とプレゼンテーションの準備を楽しむ生徒となかなか出来ず苦しむ様子の生徒が見られた。	探究活動
融合 メッセージ作成	11月	活動を振り返り、日本側の生徒から募ったメッセージ、壁画デザイン、構図と相手校の教諭がForumに載せていたメッセージを融合させる	グループ毎に意見を出し合ったものを代表のグループに全体像をまとめさせ、美術科の2人の生徒に下絵を担当して貰った。積極性、個性が見えてきた。	探究活動
創造 壁画制作	12月	異なる学年で協力しながら壁画を完成させる 相手校がどのように壁画を完成させるのか想像を膨らませる	美術が好きな生徒は細かい点までこだわって作品作りに臨み、普段の活動に乗り切れない生徒も積極的に友人達と楽しんで塗布に取り組んでいた。	探究活動
評価 振り返り 自己評価	2月	1年の活動を通して伸びた能力の項目へ○△×をつける評価と活動内容に関する自由記述の自己評価シートを使う 海外からの壁画返却がまだなので、4月に完成した壁画を鑑賞予定(可能であれば先方とオンラインで)	教師、生徒同士で1年の活動を対話を通して振り返り、達成感を得た点、課題などを見つめ直し、熱心に回答していた。	探究活動

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つけたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	4	プレゼンテーション活動をする中で、日本の状況を伝えそれを相手校と比較する場面があり、日本とパキスタンの差異、相違点を実感した。 相手校と視聴できるように、日本等に関するクイズ動画を作成したが、日本、自分の住む地域、学校に関して考えを巡らせ、英語で話すことで、自国、地域等の理解に繋がられたのではないかと考える。
主体的に考え行動する力	4	活動を続ける中で、生徒の個性が出やすくなり表情が出てきた。積極的に役割を引き受けたり、グループ活動でリードしたりする生徒もいた。教師側がなんとか双方の交流をより良くしようと個々の生徒の支援をしたり、簡単な英語で必死に伝えようとする様子を見て、自分を出しやすくなったのではないかと考える。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	KJ法やプレゼンテーション活動、また相手校と壁画について考えをまとめていく中で、相手の意見を受け止めながら考えをまとめ、論理的に話をしようという意識が見られた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	全く異なる文化、言語で生活している学生と交流し、対話することで自らの心を開き、新しい世界を垣間見てみようという様子が見られた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	グループ毎に想像を膨らませてメッセージ、壁画制作に取り組めた。壁画のベースカラーについて相手校との間で意見の食い違いがあった際も柔軟に受け止めて、急遽デザインを変えて対応した。